

**職員のための「前向きな職場づくり」入門
ー実践知を可視化、活用するー****■講師**

宮林 常崇（公立大学法人首都大学東京 日野キャンパス管理部庶務係長）

修士（経済学）、民間企業を経て、平成22年4月公立大学法人首都大学東京へ入職、自己点検・評価、DP・CP策定、文科省出向、国際副専攻プログラムの立ち上げ、全学教務総括等に従事し、平成29年4月から現職。公立大学協会共通テキスト編集チームリーダー、名古屋大学高等教育センターSD研究会メンバー、大学教務実践研究会事務局長等を務める。

■プログラム概要

職員対象の研修等は、SD義務化も追い風となり年々増加していますが、研修だけで「異動のたびに業務がリセットされる」などの職場の混乱が解消されることはありません。現場の混乱を解決するためには、扱う業務の量・質の変化にも耐えうる「前向きな職場づくり」が不可欠です。

このセッションでは、正規職員が1名しかいない職場、家庭と仕事の両立に悩むスタッフ等々、現場のリアルな職場環境を前提として、「前向きな職場づくり」のために、ミドル層は何ができるか、何をすべきかを考えます。具体的には、前半で、業務改善や実践的な知識の継承に必要なスキルや事例を確認し、後半は「他者をサポートすることが苦手なスタッフをどうするか」等のケーススタディーを行います。SD義務化の理念を実現するために、現場で何ができるか考えるきっかけとします。

■主な受講対象

主任、係長、課長補佐相当の職員 もしくは 課・係単位の組織運営に課題を抱えている職員等。

■本プログラムの到達目標

1. 大学事務組織の特徴を理解し、自分の言葉でまとめることができる（例：三遊間のゴロが苦手）。
2. 課・係単位の業務改善と実践的知識の継承に必要な技術を身に付けることができる。
3. 前向きな職場づくりに貢献することができる。

■日時・場所

日時：平成29年8月24日（木）10：00～12：00

場所：徳島大学常三島キャンパス